

平成19年度教員業務評価実施結果の概要

平成21年2月19日

茨城大学長 池田 幸雄

本学では、平成19年度の教員の活動について、その教育、研究、社会連携、校務の4業務を対象に、評価者評価を行いました。平成18年度は教育活動について評価を実施し、業務評価については試行のみでありましたが、平成19年度は業務全般について初めて評価に取り組みました。各学野長から学長へ評価概要が報告されましたので、学長として評価結果を総括いたしました。

今回の教員業務評価は教員を査定することが目的ではなく、教員が行う業務全般について自ら総合的に点検評価することにより、業務の改善と向上を図ることを目的としています。今後も教員業務評価を継続することとなっており、評価に対する教員の理解の進展と評価の質の向上のため、実施結果の概要を公表いたします。

なお、評価結果を教員の処遇に反映させることについては、次回評価時の実施課題として残されています。

1. 評価システムの概要

平成19年度の教員の業務改善評価実施手順に基づき、評価システムを構築して実施しました。以下に概要を示します。

(1) 評価の枠組み

学野毎に評価する。評価主体は学野長とする。学野長は評価結果の概要を学長に報告する。

(2) 評価対象と観点

教育については3つの観点、研究については4つの観点、社会連携については2つの観点、校務については6つの観点で、4業務について個別に評価する。

(3) 自己点検評価と段階評価

大学統一の自己点検評価書式を用い、評価対象毎に設定した観点毎に4段階で自己評価を行う。S；自己の目標以上の成果を上げた、A；自己の目標を達成した、B；自己の目標を概ね達成したが改善すべき点がある、C；自己の目標を下回った。学野長による評価も4段階で行う。4業務の総合評価は行わない。

(4) 教員への評価結果のフィードバック

評価結果は各教員へフィードバックされ、意見を聴取する。

2. 評価対象の概要

評価対象者は専任教員としました。対象者数は、人文学野 99 (95) 名、教育学野 110 (108) 名、理学野 72 (72) 名、工学野 159 (150) 名、農学野 57 (57) 名で、括弧外は在籍者数、括弧内は実施者数です。

3. 評価結果の概要

平成18年度の教育改善評価結果の反省から、SABCの基準を改訂し、より明確にしたことで、自己評価がより明確になっています。平成18年度には業務評価の試行を実施しており、それを受けて各学野においてはそれぞれ独自の評価基準と水準を設定し、より明確な評価が行われました。学野からの評価報告でも、教員の意識改革や評価姿勢の変化などが指摘されています。実施者数では高い実施率となっていますが、100%に達しない学野もあります。評価者による評価結果では、SとAの評価となった比率は、教育で88%から100%、研究で65%から100%、社会連携で74%から100%、校務で82%から100%、となっています。平成18年度の教育改善評価と同様に、各学野とも教育については高い評価を与えています。大学として、この評価結果を業務運営の改善に生かしていくつもりです。次回の評価では、処遇への反映を含めてさらに精度の高い評価を実施したいと考えております。